

Ⅲ 業務の概要

1 輸入指定糖に関する業務

(1) 概要

平成 16 事業年度における輸入指定糖に関する業務は、糖価調整法に基づく価格調整業務が行われた。

平均輸入価格が全適用期間を通じて国内産糖合理化目標価格を下回っていたので、糖価安定法第 5 条及び糖価調整法第 5 条に基づく義務売買が行われた。(第 1 表)

ア 売買数量

平成 16 事業年度における機構売買契約数量のうち、条件付きでない粗糖の売買契約数量は 1,327,389 トン (1,170 件) で、前事業年度に比べ 80,184 トン (5.7%) 減少した。

また、条件付きでないもので粗糖以外の売買契約数量は 3,345 トン (489 件) であった。

条件付きのものについては、粗糖の売買契約数量 11,983 トン (224 件)、粗糖以外の売買契約数量 1,841 トン (9 件) であった。

イ 売買差額

平成 16 事業年度に売買契約した輸入糖の売買差額は、粗糖 53,812,210 千円、粗糖以外のもの 152,733 千円、合計 53,964,942 千円となっており、平成 15 事業年度に比べ 4,290,813 千円 (8.6%) 増加した。

(2) 売買契約実績

ア 粗糖

(単位：kg・円)

区分 年月	総 数		うち条件付きのもの		うち条件付きでないもの			備 考
	件 数	数 量	件 数	数 量	件 数	数 量	売買差額 (調整金)	
16年 4月	109	90,404,702	24	1,142,287	85	89,262,415	3,606,023,045	
5月	110	114,245,900	16	1,017,401	94	113,228,499	4,574,279,575	
6月	146	129,770,622	16	873,536	130	128,897,086	5,626,928,292	
7月	134	151,606,996	26	1,345,429	108	150,261,567	5,947,216,709	
8月	83	92,685,425	13	743,820	70	91,941,605	3,639,027,524	
9月	181	160,964,944	19	1,001,216	162	159,963,728	6,729,109,148	
10月	90	96,622,104	18	990,855	72	95,631,249	3,700,929,386	
11月	119	137,787,681	23	1,178,393	96	136,609,288	5,286,862,344	
12月	154	156,667,258	21	765,695	133	155,901,563	6,452,081,374	
17年 1月	77	69,412,262	18	1,122,155	59	68,290,107	2,608,272,756	
2月	84	67,399,690	15	1,087,217	69	66,312,473	2,567,036,044	
3月	107	71,804,042	15	714,522	92	71,089,520	3,074,443,501	
合 計	1,394	1,339,371,626	224	11,982,526	1,170	1,327,389,100	53,812,209,698	

イ 粗糖以外

(単位：kg・円)

区分 年月	総 数		うち条件付きのもの		うち条件付きでないもの			備 考
	件 数	数 量	件 数	数 量	件 数	数 量	売買差額（調整金）	
16年 4月	44	260,908	0	0	44	260,908	11,639,680	
5月	37	462,350	1	217,116	36	245,234	12,235,677	
6月	41	415,735	1	216,216	40	199,519	9,439,861	
7月	57	683,651	2	433,332	55	250,319	11,500,080	
8月	33	185,109	0	0	33	185,109	7,732,702	
9月	29	728,659	2	432,945	27	295,714	15,796,458	
10月	42	179,130	0	0	42	179,130	7,195,344	
11月	48	519,949	0	0	48	519,949	23,746,655	
12月	38	336,000	0	0	38	336,000	16,397,450	
17年 1月	40	436,306	1	216,486	39	219,820	8,889,728	
2月	40	629,996	2	325,035	38	304,961	13,047,223	
3月	49	348,188	0	0	49	348,188	15,111,727	
合 計	498	5,185,981	9	1,841,130	489	3,344,851	152,732,585	

2 異性化糖に関する業務

(1) 概要

平成 16 事業年度における異性化糖平均供給価格は全適用期間を通じて異性化糖調整基準価格を下回って推移したが、16 年 7～9 月は異性化糖平均供給価格が、異性化糖標準価格を上回ったため、国内産異性化糖、輸出用異性化糖及び輸入異性化糖等については、機構売買の対象とならなかった。

ア 国内産異性化糖

16 事業年度における国内産異性化糖の売買契約数量は、562,613 トン（標準異性化糖換算数量）となり、売買差額として 2,648,309 千円の調整金を徴収した。これは前年度と比較すると、売買契約数量で 212,483 トン（27.4%）の減少、調整金で 353,026 千円（11.8%）の減少となった。調整金の大幅な減少は（16 年 7～9 月）において売買が行われなかったことによる。

また、規格別にみると果糖含有率 40%未満のもの 5,089 トン、40%以上 50%未満のもの 161,511 トン、50%以上 60%未満のもの 387,199 トン及び 60%以上のもの 29,818 トンとなっており、50%以上 60%未満のものが全体の約 66.3%を占めている。

イ 輸出用異性化糖

16 事業年度における輸出用異性化糖の売買契約は 105 トン（標準異性化糖換算数量）、契約解除数量（輸出されたもの）105 トン（前年度繰越分 26 トンを含む）、契約未解除数量は 0 トンとなった。なお、全量が果糖含有率 60%以上のものであった。

ウ 輸入異性化糖及び混合異性化糖

16 事業年度における輸入異性化糖の売買契約数量は 5.530 トン（標準異性化糖換算数量）となり、売買差額として 34,275 円の調整金を徴収した。

また、混合異性化糖の売買は行われなかった。

(2) 売買契約実績

ア 国内産異性化糖

(単位：k g・円)

規格 年月	果糖含有率 40%未満	果糖含有率 40%以上50%未満	果糖含有率 50%以上60%未満	果糖含有率 60%以上	合 計	標準異性化糖 換算数量	売 買 差 額
16.4	704,177	22,619,067	50,970,945	4,752,534	79,046,723	76,474,902	163,801,983
5	579,582	20,050,525	51,891,311	4,962,043	77,483,461	75,696,439	162,135,779
6	637,798	22,146,607	55,254,320	5,723,002	83,761,727	81,942,802	181,356,155
7							
8							
9							
10	512,590	15,834,375	35,871,946	2,942,202	55,161,113	53,108,865	269,891,886
11	585,090	16,111,466	35,745,843	1,650,690	54,093,089	51,127,651	259,822,167
12	575,315	16,457,902	38,778,727	1,841,181	57,653,125	54,730,650	286,150,235
17.1	421,137	13,780,698	33,705,112	1,464,600	49,371,547	46,897,498	364,390,198
2	511,466	14,971,735	36,151,358	2,278,173	53,912,732	51,642,144	401,256,072
3	562,239	19,538,863	48,829,447	4,203,943	73,134,492	70,992,365	559,504,046
合 計	5,089,394	161,511,238	387,199,009	29,818,368	583,618,009	562,613,316	2,648,308,521

イ 輸出用異性化糖

(単位：k g, 円)

区分 年月	売 買 契 約			契 約 解 除			輸 出 取 止			残 高		
	数 量	標準異性化 糖換算数量	売買差額	数 量	標準異性化 糖換算数量	売買差額	数 量	標準異性化 糖換算数量	売買差額	数 量	標準異性化 糖換算数量	売買差額
前年度繰越	16,000	26,176	157,472	0	0	0	0	0	0	16,000	26,176	157,472
16.4	0	0	0	16,000	26,176	157,472	0	0	0	0	0	0
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	16,000	26,176	133,040	0	0	0	0	0	0	16,000	26,176	133,040
11	0	0	0	16,000	26,176	133,040	0	0	0	0	0	0
12	32,000	52,352	266,080	0	0	0	0	0	0	32,000	52,352	266,080
17.1	0	0	0	32,000	52,352	266,080	0	0	0	0	0	0
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
合 計	64,000	104,704	556,592	64,000	104,704	556,592	0	0	0	0	0	0

(注) 売買契約等は果糖含有率60%以上の異性化糖である。

3 国内産糖に関する業務

(1) 概要

平成 16 事業年度におけるてん菜糖及び甘しゅ糖の国内産糖交付金交付業務については、平成 16 年 4 月から 9 月までは 15 年産糖、16 年 10 月から 17 年 3 月までは 16 年産糖に対して行った。

国内産糖交付金交付申請に係る蔵置場所については、国内産糖交付金交付要領第 5 及び国内産糖倉庫指定要領に基づき 15 砂糖年度に指定（15～17 砂糖年度適用）されたものに追加及び解除を行った。（第 4 表）

(2) 価格の動向

平成 16 事業年度における価格の動向は、概ね次のとおりである。

平均輸入価格の第 1・四半期は、トン当たり 2 万 3 千円台であったが、その後上昇傾向で推移し、第 2・四半期には 2 万 6 千円台、第 3・四半期は 2 万 7 千円台、第 4・四半期には 2 万 9 千円台まで上昇した。

一方、平均市価も上白、ビートグラともに年度当初はトン当たり 12 万 9 千円台であったが、5 月に 13 万円の大台に上昇後は、8 月から 10 月までは 13 万 2 千円台、11 月から 2 月までは 13 万 3 千円台、3 月以降は 13 万 4 千円台と上昇で推移した。

(3) 平成 16 事業年度における国内産糖交付金交付業務

ア てん菜糖

15 年産のてん菜糖生産量は 744,436 トン（うち、てん菜原料糖は 281,437 トン）で、交付金交付数量は 491,806 トン（うち、てん菜原料糖は 170,530 トン）は既に 16 年 3 月までに交付金交付決定されており、16 年 4 月から 9 月までの交付金交付決定数量は 252,545 トン（うち、てん菜原料糖は 110,907 トン）であった。

16 年産のてん菜糖生産量は 785,510 トン（うち、てん菜原料糖は 308,911 トン）で、このうち 17 年 3 月までの交付金交付決定数量は 592,306 トン（うち、てん菜原料糖は 218,999 トン）であった。

この交付金交付によって製造事業者を支払われた交付金額は、69,715,509 千円（うち、てん菜原料糖は 28,038,668 千円）であった。（第 5 表）

イ 甘しゅ糖

15 年産の甘しゅ糖生産量は、鹿児島県産 68,491 トン、沖縄県産 91,903 トンで、このうち鹿児島県産 53,397 トン、沖縄県産 80,629 トンは既に 16 年 3 月までに交付金交付決定されており、16 年 4 月から製糖終了までの交付金交付決定数量は、鹿児島県産 15,008 トン、沖縄県産 11,146 トンであった。

16 年産の甘しゅ糖生産量は、鹿児島県産 55,446 トン、沖縄県産 71,047 トンで、このうち 17 年 3 月までの交付金交付数量は、鹿児島県産 42,585 トン、沖縄県産 65,730 トンであった。

この交付金交付によって製造事業者を支払われた交付金額は、鹿児島県産 11,620,261 千円、沖縄県産 15,435,163 千円であった。（第 5 表）

(4) 国内産原料糖入札取引業務

国内産原料糖の入札取引に係る業務規程及び業務細則に基づき 16 砂糖年度における、売り手（8 者）及び買い手（24 者）の登録を行うと共に、国内産原料糖価格形成施設において取引監視委員立会いのもと入札取引を 4 回行った。結果については、全量が落札されており、再入札は行われなかった。（第 6 表）

第3表 国内産糖交付金単価

(単位：円／トン)

砂糖 年度	てん菜糖		甘しや糖				
	白糖	原料糖	鹿児島県産	沖縄県産			
				本島	島内	離島（南北大東島除く）	南北大東島
15	82,312	89,424	205,421	203,321	202,421	207,771	211,121
16	80,412	82,744	—	197,152	196,252	201,602	204,952

(単位：円／トン)

砂糖 年度	甘しや糖					
	鹿児島県産					
	種子島	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
15	—	—	—	—	—	—
16	199,899	203,632	200,646	199,152	203,632	202,885

(注) 平成16砂糖年度より、鹿児島県産の価格は島ごとに定められることとなった。

第5表 国内産糖交付金交付決定数量

(単位：トン、千円)

項 目		てん菜糖	甘しや糖	
			鹿児島県産	沖縄県産
産 糖 量	15年産	(281,437) 744,436	68,491	91,903
	16年産	(308,911) 785,510	55,446	71,047
交付決定数量	15年産 (16年4～9月)	(110,907) 252,545	15,008	11,146
	16年産 (16年10月～17年3月)	(218,999) 592,306	42,585	65,730
	計	(329,906) 844,851	57,593	76,876
国内産糖交付金交付決定金額		(28,038,668) 69,715,509	11,620,261	15,435,163

(注) てん菜糖の上段()は、てん菜原料糖に係るもので内数である。

第6表 平成16事業年度における国内産原料糖の入札結果

1 てん菜原料糖

区分 回	上場数量 (売り手数) 単位 トン (者)	申込者数 者	申込数量 トン	申込倍率 倍	落札者数 者	落札数量 トン	不落札数量 トン	落札率 %	落札価格		
									最高 円/トン	最低 円/トン	平均 円/トン
15砂糖年度 第3回 16年 4月 9日 15年産	13,230.000 (1)	21	37,746.630	2.9	21	13,230.000	0.000	100.0	61,070	60,640	62,629
第4回 16年 7月 7日 15年産	13,980.000 (1)	21	40,075.020	2.9	21	13,980.000	0.000	100.0	69,210	62,700	64,590
16砂糖年度 第1回 16年10月 6日 16年産	13,710.000 (1)	21	38,757.840	2.8	21	13,710.000	0.000	100.0	69,990	64,000	65,442
第2回 17年 1月13日 16年産	10,350.000 (1)	21	30,511.020	2.9	21	10,350.000	0.000	100.0	70,810	65,630	67,107

(注) 1 不落札数量は、(上場数量-落札数量)である。
2 落札価格は、消費税及び地方消費税を含まない。

2 甘しや分みつ糖

区分 回	上場数量 (売り手数) 単位 トン (者)	申込者数 者	申込数量 トン	申込倍率 倍	落札者数 者	落札数量 トン	不落札数量 トン	落札率 %	落札価格
									平均 円/トン
16砂糖年度 第1回 16年10月 6日 (1)	600.000	6	3,600.000	6.0	1	600.000	0.000	100.0	85,160
第2回 17年 1月13日 (2)	2,200.000	9	10,000.000	4.5	2	2,200.000	0.000	100.0	87,114

(注) 1 不落札数量は、(上場数量-落札数量)である。
2 落札価格は、消費税及び地方消費税を含まない。

4 砂糖の補助に関する業務

砂糖生産振興事業

16事業年度に実施した補助事業は、16事業13,922,627千円であり、事業内容は次のとおりである。

(1) てん菜優良品種育成・普及推進事業

根腐病・黒根病に対する耐病性品種の早期育成を推進するため、海外から導入したてん菜の耐病性遺伝資源を使用し国内の育種素材の増殖等を行うとともに、播種作業の省力化のための機械開発・改良を行う事業に対し補助することとした。

(2) ビート産業合理化促進総合対策事業

てん菜の生産コスト削減、生産性の向上等を図るため、播種プラントの更新、共同育苗ハウスの整備等てん菜生産の効率化・省力化に必要な経費等を補助することとした。

(3) さとうきび栽培技術高度化事業

さとうきびの省力化・低コスト生産体制を推進するため、実証ほを設置し、単収向上のかん水技術、性フェロモンを利用した害虫の防除技術、秋収穫品種や緑肥栽培を取り入れた新たな作付体系、糖度向上のための栽培技術等の普及促進に向けた実証栽培を行い、県、試験研究機関、普及機関、市町村、農業協同組合、製糖業者、営農集団、生産者、有識者等を構成員とする推進協議会を開催するとともに、新栽培技術の導入による効果について評価・分析を行う事業に対し補助することとした。

(4) さとうきび品質取引安定化事業

さとうきびの品種構成が高糖度の品種へ移行してきていることを踏まえ、甘しゃ糖度換算式の見直しに必要な品質分布調査等を行うとともに、近赤外分光分析計による品質測定信頼性の確保を図るため、近赤外分光分析計で測定された蔗汁糖度（原料さとうきびの搾汁液の糖度）と旋光糖度計で測定された蔗汁糖度との比較検証等及び品質取引の低コスト化を図る観点から、生産者団体、糖業者団体、有識者等を構成員とする検討会を開催する事業に対し補助することとした。

(5) さとうきび・糖業安定生産緊急対策事業

平成15年度までの新R事業を継承しつつ、将来のさとうきび生産の担い手の育成を重点課題として、高品質・高生産性のさとうきび、甘しゃ糖生産の促進等に向けた地域におけるさとうきび生産者、製糖業者、県、市町村等の関係者が一体となって取り組む事業に対し補助することとした。

(6) 農業経営基盤強化特別対策事業

てん菜、さとうきびの生産の実態、地域の実情等を踏まえ、てん菜・さとうきびにおける生産農家の農業経営基盤強化に向けて取り組む事業に対し補助することとした。

(7) てん菜糖集荷製造流通合理化対策事業

てん菜糖企業におけるてん菜糖の集荷・製造・流通経費の縮減への取組みを支援するため、てん菜糖製造合理化計画に則して行われる、原料受入れ体制の合理化及び効率的な製造・流通施設の整備に要する事業、早期退職の促進等に要する経費に対し補助することとした。

(8) てん菜糖省エネ・環境対策推進事業

てん菜糖企業における省エネルギー対策・環境対策への取組みを支援するため、てん菜糖製造合理化計画に則して行われる、製糖工程で必要となる燃料・電気等のエネ

ルギーに要するコストを削減する施設整備や大量に発生するライムケーキ等の処理費用の縮減及び余剰汚泥の減量化・再資源化を図るための省エネルギー化施設及び再資源化施設の整備に要する事業に対し補助することとした。

(9) てん菜糖農務関係業務合理化推進事業

てん菜糖企業の農務関係業務の合理化への取組みを支援するため、てん菜生産者・農協・てん菜糖企業間の役割分担の見直しを図ることによって、てん菜の効率的な生産・出荷体制の構築を通じて、てん菜糖企業の農務関係業務の削減の円滑な実施を支援するとともに、農業協同組合等がてん菜の営農指導及び計画出荷を推進する事業に対し補助することとした。

(10) 甘しゅ糖製造合理化対策事業

甘しゅ糖企業の集荷製造経費の削減に向けた合理化への取組みを支援するため、甘しゅ糖製造合理化計画に則した効率的な甘しゅ糖製造設備の整備、甘しゅ糖工場廃棄の際の除却損及び廃棄費用、従業員の早期退職及び甘しゅ糖の高品質化に向けた原料選別装置の整備を行う事業、さとうきびの糖度別買入価格体系の見直しにおいて、低糖度帯の見直しが3年間据え置かれることに伴う、甘しゅ糖の原料代の負担増加分に対し補助することとした。

(11) 甘しゅ糖合理化促進臨時助成事業

標準的な集荷製造経費を基準として算定される国内産糖交付金によっては実際の集荷製造経費を賄えない甘しゅ糖企業に対し、合理化の取組状況も勘案しつつ、その差額を補填する事業に対し補助することとした。

(12) 精製糖企業合理化促進緊急対策事業

精製糖企業が行う、砂糖の製造から販売・流通等に至る一連の過程のコスト低減・合理化に資するための取組に対して補助することとした。

(13) 砂糖消費拡大推進事業

消費者に対して砂糖に対する誤解や効用に関する情報提供体制を整備・強化するための普及啓発を行うとともに、シンポジウムの開催等を通じ有識者間の砂糖の機能・効用に関する議論の活性化、消費者との情報交換等の活動を促進し、オピニオンリーダーの育成・強化等により砂糖に対する正しい理解の浸透を図るなど、砂糖の需要の増進に資する事業に対し補助することとした。

IV 砂糖類業務関係年表

年月日	事項
16. 4. 6	砂糖生産振興事業現地説明会（北海道）
16. 4. 7	砂糖生産振興事業現地説明会（沖縄）
16. 4. 9	平成15砂糖年度第3回国産原料糖入札取引
16. 4. 16	平成15砂糖年度第3回指定糖入札取引
16. 4. 21	砂糖生産振興事業現地説明会（鹿児島）
16. 5. 14	平成15砂糖年度異性化糖第3・四半期売渡し申込みに係る農林水産大臣が定める数量変更の通知
16. 6. 25	平成15年産てん菜糖第4・四半期交付申請計画数量を農林水産省生産局長に届け出
16. 6. 28	平成15砂糖年度異性化糖第4・四半期売渡し申込みに係る農林水産大臣が定める数量の通知
16. 6. 28	平成15砂糖年度指定糖第4・四半期売渡し申込みに係る農林水産大臣が定める数量の通知
16. 7. 7	平成15砂糖年度第4回国産原料糖入札取引
16. 7. 16	平成15砂糖年度第4回指定糖入札取引
16. 8. 5	米国の海外出張報告会
16. 9. 15	平成16砂糖年度指標価格等告示
16. 9. 27	砂糖生産振興事業における施設整備に係る事業の採択基準に係る事務担当者説明会
16. 9. 29	平成16砂糖年度異性化糖第1・四半期売渡し申込みに係る農林水産大臣が定める数量の通知

年月日	事項
16. 9. 29	平成16砂糖年度指定糖第1・四半期売渡し申込みに係る農林水産大臣が定める数量の通知
16. 10. 6	平成16砂糖年度第1回国内産原料糖入札取引
16. 10. 13	平成16砂糖年度第1回指定糖入札取引
16. 10. 15	平成16年産てん菜糖第1・四半期交付申請計画数量を農林水産省生産局長に届け出
16. 10. 28	第4回さとうきび・甘しょ関係検討会を沖縄県那覇市で開催
16. 12. 10	平成16年産てん菜糖第1・四半期交付申請計画数量の変更を農林水産省生産局長に届け出
16. 12. 13	平成16年産甘しょ糖第1・四半期交付申請計画数量を農林水産省生産局長に届け出
16. 12. 22	平成16年産てん菜糖第2・四半期交付申請計画数量を農林水産省生産局長に届け出
16. 12. 22	平成16年産甘しょ糖第2・四半期交付申請計画数量を農林水産省生産局長に届け出
16. 12. 27	平成16砂糖年度異性化糖第2・四半期売渡し申込みに係る農林水産大臣が定める数量の通知
16. 12. 27	平成16砂糖年度指定糖第2・四半期売渡し申込みに係る農林水産大臣が定める数量の通知
17. 1. 13	平成16砂糖年度第2回国内産原料糖入札取引
17. 1. 18～ 17. 2. 2	地域情報交換会を全国6ヶ所で開催（東京・横浜1/18、大阪・神戸1/19、札幌・名古屋1/20、福岡1/21、那覇2/2）
17. 1. 20	平成16砂糖年度第2回指定糖入札取引
17. 1. 25	英国の海外出張報告会
17. 2. 21	第22回精糖懇談会

年月日	事項
17. 2. 25	平成16年度砂糖類情報検討委員会を開催
17. 3. 10	平成16年産てん菜糖第2・四半期交付申請計画数量の変更を農林水産省生産局長に届け出
17. 3. 25	平成16砂糖年度異性化糖第3・四半期売渡し申込みに係る農林水産大臣が定める数量の通知
17. 3. 28	平成16年産てん菜糖第3・四半期交付申請計画数量を農林水産省生産局長に届け出
17. 3. 28	平成16砂糖年度指定糖第3・四半期売渡し申込みに係る農林水産大臣が定める数量の通知
17. 3. 29	平成16年産甘しゅ糖第3・四半期交付申請計画数量を農林水産省生産局長に届け出